

新約聖書 ルカによる福音書 16 章 19 節—31 節（新共同訳）

¹⁹「ある金持ちがいた。いつも紫の衣や柔らかい麻布を着て、毎日ぜいたくに遊び暮らしていた。²⁰この金持ちの門前に、ラザロというできものだらけの貧しい人が横たわり、²¹その食卓から落ちる物で腹を満たしたいものだと思っていた。犬もやって来ては、そのできものをなめた。²²やがて、この貧しい人は死んで、天使たちによって宴席にいるアブラハムのすぐそばに連れて行かれた。金持ちも死んで葬られた。²³そして、金持ちは陰府でさいなまれながら目を上げると、宴席でアブラハムとそのすぐそばにいるラザロとが、はるかかなたに見えた。²⁴そこで、大声で言った。『父アブラハムよ、わたしを憐れんでください。ラザロをよこして、指先を水に浸し、わたしの舌を冷やさせてください。わたしはこの炎の中でもだえ苦しんでいます。』²⁵しかし、アブラハムは言った。『子よ、思い出してみるがよい。お前は生きていた間に良いものをもらっていたが、ラザロは反対に悪いものをもらっていた。今は、ここで彼は慰められ、お前はもだえ苦しむのだ。²⁶そればかりか、わたしたちとお前たちの間には大きな淵があって、ここからお前たちの方へ渡ろうとしてもできないし、そこからわたしたちの方に越えて来ることもできない。』²⁷金持ちは言った。『父よ、ではお願いします。わたしの父親の家にラザロを遣わしてください。』²⁸わたしには兄弟が五人います。あの者たちまで、こんな苦しい場所に来ることのないように、よく言い聞かせてください。』²⁹しかし、アブラハムは言った。『お前の兄弟たちにはモーセと預言者がいる。彼らに耳を傾けるがよい。』³⁰金持ちは言った。『いいえ、父アブラハムよ、もし、死んだ者の中からだれかが兄弟のところに行ってやれば、悔い改めるでしょう。』³¹アブラハムは言った。『もし、モーセと預言者に耳を傾けないのなら、たとえ死者の中から生き返る者があっても、その言うことを聞き入れはしないだろう。』」

※第 1 朗読と第 2 朗読は末尾に掲載

説教「大きな淵」

本日の福音書は、イエスが「金持ちとラザロ」のたとえ話を語った場面です。

そこには、いつも紫の衣や柔らかい麻布を着て、毎日ぜいたくに遊び暮らしている金持ちと、ラザロというできものだらけの貧しい人が登場します。

人から施しを受けなければ生きていけないラザロは、金持ちの門前に横たわっていました。そして、金持ちの食卓の残飯で腹を満たしたいと願っていました（ルカ 16:21）。

しかし、誰もラザロに助けの手を差し伸べてはくれませんでした。ただ犬だけがやってきて、ラザロのできものをなめるだけでした（ルカ 16:21）。

裕福な金持ちとは正反対のラザロの極限の惨めさがそこにありました。金持ちとラザロとの間には、この世における大きな格差がありました。

金持ちとラザロは、全く違う世界に生きていたものの、金持ちと、その門前に横たわっていたラザロとの物理的距離は近く、二人はすぐそばにいたのです。

そして死の前では、すべての人間が平等です。すべての人は等しく死ぬという摂理のもとに、金持ちとラザロの二人に死が訪れました。そして貧しかったラザロは、天使たちによって宴会の席にいるアブラハムのすぐそばに連れて行かれます。

アブラハムは、旧約聖書を代表する人物です（創世記 12 章—25 章）。アブラハムのすぐそばに連れて行かれたとは、祝福のうちにラザロが天の国に入れられたことを意味します。ラザロの地上での苦しみは、死後報われたのです。他方で、この世で贅沢三昧であった金持ちは、死後、陰府で苦しんでいました（ルカ 16:23）。

金持ちが陰府でさいなまれながら目を上げると、アブラハムのすぐそばにいるラザロが見えました。二人の境遇は死後に逆転しました。かつて、連日宴会に興じる金持ちのすぐそばで、ラザロは困窮していました。ところが今や、金持ちの方が苦境に陥り、アブラハムのそばで豊かに憩うラザロの姿を見ることになりました。

そこで、この金持ちは「父アブラハムよ」と呼びかけ、「私を憐れんでください」と訴えます（ルカ 16:24）。そして、アブラハムのそばにいるラザロの指先を水に浸させ、自分の舌を冷やすために遣わしてくれるようにと懇願します。

しかしアブラハムは、ラザロを自分のもとに遣わしてくださいという金持ちの訴えを拒否します。ラザロと金持ちとの間には大きな淵があり、越えることができないからだ、と。

そこで金持ちは、まだ生きている自分の五人の兄弟たちを引き合いに出し、彼らがこんな苦しい場所に来ることがないように、彼らのもとにラザロを遣わしてほしいとアブラハムに懇願します。しかしアブラハムは、その願いも退けます。そして「お前の兄弟たちにはモーセと預言者がいる。彼らに耳を傾けるがよい」と言ったのです（ルカ 16:29）。

「モーセと預言者」とは旧約聖書のことです。金持ちの五人の兄弟たちは、旧約聖書に記されている律法や預言者の言葉に聞けばよいと言っているのです。しかし金持ちは、自分自身が聖書に記される神の言葉を見過ごしていたように、兄弟たちもそれを見過ごしていることが分かっていました。そんな兄弟たちが悔い改めるためには、死んだラザロが生きている兄弟たちの前に現れ、メッセージを伝えるくらいの非日常的で神秘的な出来事が必要だと思ったのです。

自分自身はもはや手遅れだと諦めざるを得ない金持ちは、せめてまだ生きている自分の五人の兄弟は悔い改めて欲しいと願いました。

しかしアブラハムは、聖書の言葉に耳を傾けることが最終的な答えであると強調します。五人の兄弟たちが聖書の言葉に耳を傾けないのであれば、たとえ死者の中から生き返る者があっても、その言うことを彼らは聞き入れないだろうと述べたのです（ルカ 16:31）。

このたとえ話の中で、アブラハムは、ここには越えられない「大きな淵」があると言い、救いを求める金持ちの訴えを拒否します（ルカ 16:26）。

アブラハムは、旧約聖書を代表する人物です。旧約聖書では、貧しい人々をなおざりにせず大切にしましょうという倫理が語られています（レビ記 19:10、申命記 15:11、イザヤ 3:14-15）。そして、その教えを実践しなかった人には、アブラハムですら救いの手を差し伸べることができないと言われています。

このたとえ話では、アブラハムが神の代理のような役割をしているものの、神は直接出てきません。神学者カール・バルトの表現を借りるならば、一見すると「最後通牒」のような絶対的な響きを持つアブラハムの言葉は、「最後から一歩手前の神の言葉」であると言えるでしょう。

アブラハムの言葉は、「神の最後の言葉」の一歩手前の言葉なのでしょう。そして、それに続く「神の最後の言葉」とは、罪のゆるしと救いをもたらす言葉なのではないでしょうか。このたとえば、神が登場しないことによって、「神の最後の言葉」が語られる余地を残しているのだと思います。

主イエス・キリストは、人間の視点で見れば手遅れだと諦めざるを得ない状況でも、まだ間に合うと、絶えず私たちに呼びかけてくださっています。

陰府の国で、ラザロと金持ちとの間にあった決して越えることのできない大きな淵を埋めて、橋渡しをしてくださるのが主イエス・キリストです。

一見、どんなに手遅れに見えたとしても、悔い改めに遅すぎるということはありません。

神の恵み・憐れみは、私たちの思いを遙かに超えた大きなものであることを、私たちは知る時が来ます。

死後の世界で金持ちとラザロの間に立ちはだかった大きな淵が、主イエス・キリストの業によって埋められた時、ラザロは金持ちのために陰府にまで降りていって、指先を水に浸し、炎の中でもだえ苦しむ金持ちの舌を冷やしてあげるでしょう。

私たち人間が心の平安を得るために、何よりも大切なものは、ゆるしと愛です。

主イエス・キリストが、私たちをゆるし愛してくださったように、私たちも自分自身と人をゆるし、愛しましょう。

私たちはどんな時も希望を捨てず、日々、悔い改め、試みの時も、喜びの時も、共に生きていきましょう。

お祈りをいたします。

天の父なる神様。私たちが、普段の生活の中でそばにいてくださる主イエスの声に心を開き、人間の力を超えた大きな恵みによって生きていくことができますように。困窮している人に、あなたからの助けをお与えください。御子イエス・キリストによって祈ります。アーメン

***** 説教ここまで *****

以下、本日に関連する聖書箇所（第 1 朗読と第 2 朗読）です。

旧約聖書 アモス書 6 章 1 節と 4 節—7 節（新共同訳）

¹ 災いだ、シオンに安住し／サマリアの山で安逸をむさぼる者らは。諸国民の頭である国に君臨し／イスラエルの家は彼らに従っている。

⁴ お前たちは象牙の寝台に横たわり／長いすに寝そべり／羊の群れから小羊を取り／牛舎から子牛を取って宴を開き／⁵ 豎琴の音に合わせて歌に興じ／ダビデのように楽器を考え出す。⁶ 大杯でぶどう酒を飲み／最高の香油を身に注ぐ。しかし、ヨセフの破滅に心を痛めることがない。⁷ それゆえ、今や彼らは捕囚の列の先頭を行き／寝そべって酒宴を楽しむことはなくなる。

新約聖書 テモテへの手紙— 6 章 6 節—19 節（新共同訳）

⁶ もっとも、信心は、満ち足りることを知る者には、大きな利得の道です。⁷ なぜならば、わたしたちは、何も持たずに世に生まれ、世を去るときは何も持っていくことができないからです。⁸ 食べる物と着る物があれば、わたしたちはそれで満足すべきです。⁹ 金持ちになろうとする者は、誘惑、罠、無分別で有害なさまざまの欲望に陥ります。その欲望が、人を滅亡と破滅に陥れます。¹⁰ 金銭の欲は、すべての悪の根です。金銭を追い求めるうちに信仰から迷い出て、さまざまのひどい苦しみで突き刺された者もいます。

¹¹ しかし、神の人よ、あなたはこれらのことを避けなさい。正義、信心、信仰、愛、忍耐、柔和を追い求めなさい。¹² 信仰の戦いを立派に戦い抜き、永遠の命を手に入れなさい。命を得るために、あなたは神から召され、多くの証人の前で立派に信仰を表明したのです。¹³ 万物に命をお与えになる神の御前で、そして、ポンティオ・ピラトの面前で立派な宣言によって証しをなされたキリスト・イエスの御前で、あなたに命じます。¹⁴ わたしたちの主イエス・キリストが再び来られるときまで、おちどなく、非難されないように、この掟を守りなさい。¹⁵ 神は、定められた時にキリストを現してください。神は、祝福に満ちた唯一の主権者、王の王、主の主、¹⁶ 唯一の不死の存在、近寄り難い光の中に住まわれる方、だれ一人見たことがなく、見るこののできない方です。この神に誉れと永遠の支配がありますように、アーメン。

¹⁷ この世で富んでいる人々に命じなさい。高慢にならず、不確かな富に望みを置くのではなく、わたしたちにすべてのものを豊かに与えて楽しませてくださる神に望みを置くように。¹⁸ 善を行い、良い行いに富み、物惜しみをせず、喜んで分け与えるように。¹⁹ 真の命を得るために、未来に備えて自分のために堅固な基礎を築くようにと。

教会讃美歌 292 番「重荷をにないて」、365 番「愛なるみ神に」、260 番「主イエス・キリストよ」、199 番「主よいま去りゆく」。